

# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

本調査は平成23年度及び平成24年度に一般国道9号中山名和道路の改築に伴って実施した、西伯郡大山町赤坂地内に所在する赤坂小丸山遺跡の発掘調査である。

山陰地方では国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路の一部が自動車専用道路として供用されている。

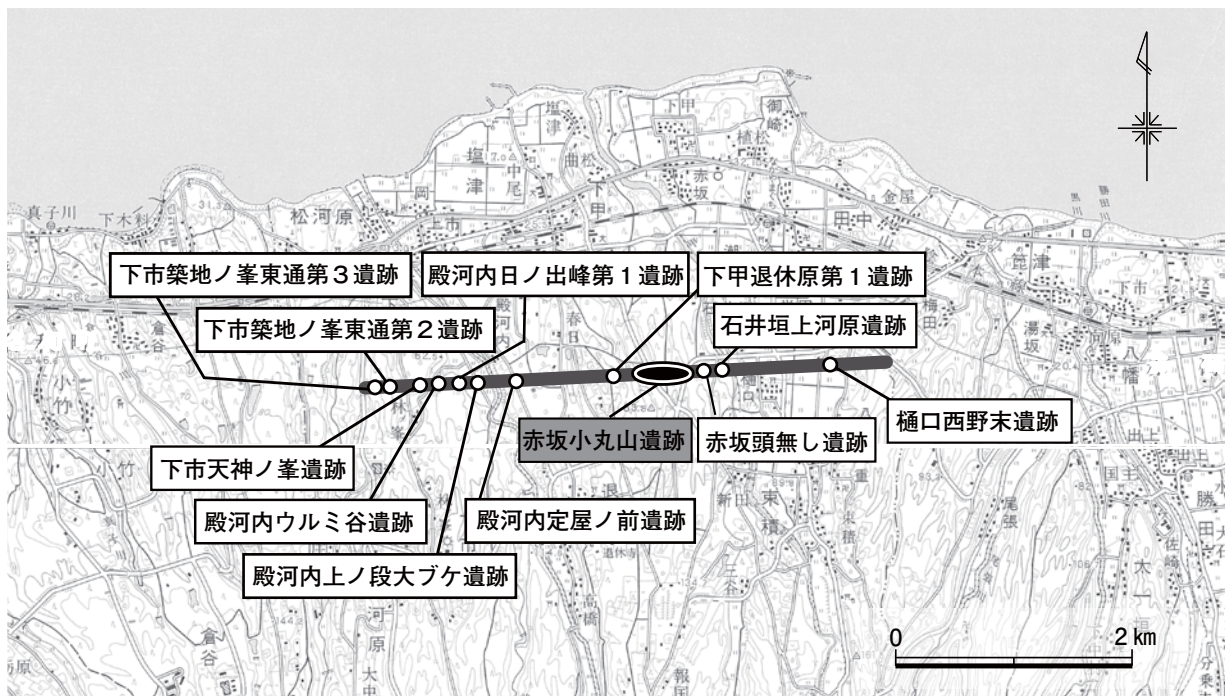
このうち、大山町を通る中山名和道路の計画地内及び隣接地には多くの遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡の有無・範囲・内容等を確認する必要性が生じた(第1図)。このため、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が行われた。

その結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、赤坂小丸山遺跡の本発掘調査を実施することとなった。

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 調査区の名称と調査方法(第2図)

調査前の状況は畑地もしくは山林であった。調査地の外形は、調査範囲外も含めると東西約380m、南北約30～60mと東西に長いため、便宜上、調査地を南北に通る下甲農免農道を境にして東側に位置する調査区を東区、西側に位置する調査区を西区と呼称して調査を行った。さらに東区は県道下市赤碓停車場線や町道等により調査地が分かれているため、それぞれA区～G区に分けている(第2図)。



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図

## 第1章 調査の経緯

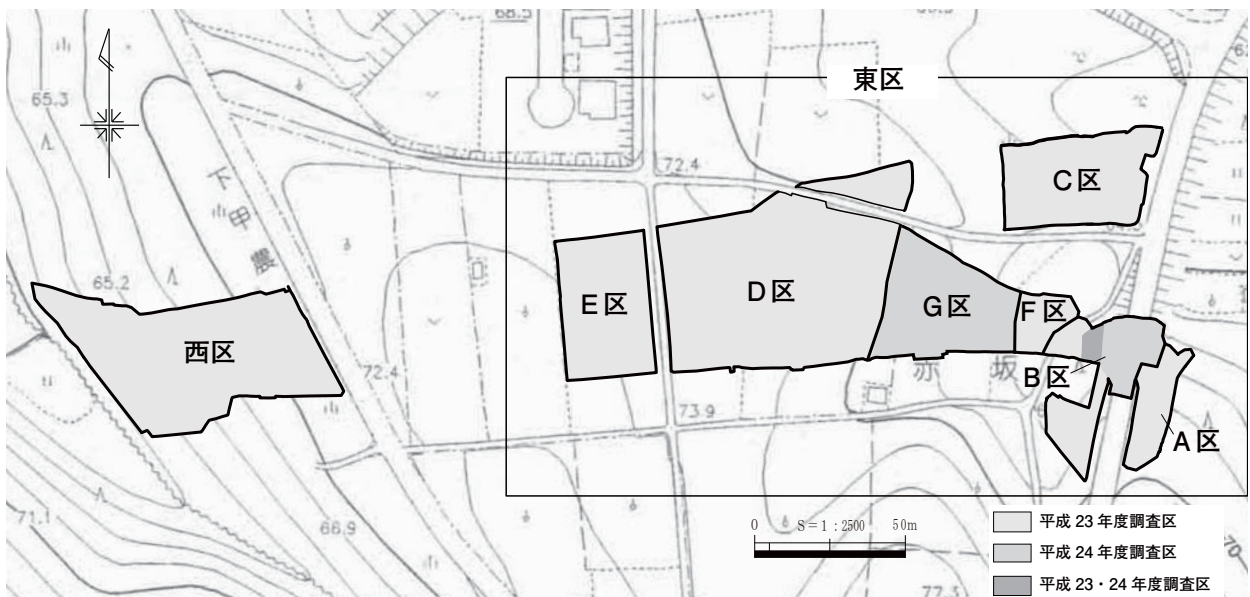
調査に先立ち、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採り、C区のH15(X: -54270m、Y: -68280m)、西区のJ34(X: -54290m、Y: -68470m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H19-2-4の71.828m他を使用した。

検出した遺構や遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判、及び4×5判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前及び調査後写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

## 2 調査の経過

**平成23年度** 平成23年度の調査は、平成23年4月1日から業者委託による調査前地形測量を開始し、4月7日には調査前航空写真撮影を行った。4月18日から26日にかけて重機による表土剥ぎ作業を行い、4月27日から発掘作業員の稼働を開始した。調査は東区と西区を並行して行い、東区は複数の調査区の調査を並行しながら概ねA区からF区の順に調査を行った。11月27日には現地説明会を開催し、52名の来場者を得た。11月14日からは調査後地形測量を実施し、12月14日をもって現地作業をすべて終了した。ただし、B区で確認された製鉄炉は県道下市赤碕停車場線の現道路下に延びていることが明らかになったため、遺構検出に留め、平成24年度に改めて道路下部分を含めた調査を実施することとした。また、G区についても当初は調査範囲外であったが、道路遺構2が延びていることが判明し、平成24年度に追加調査することになった。調査の結果、平成23年度は縄文時代の集石土坑7基、落とし穴24基、掘立柱建物跡4棟、弥生時代後期の竪穴建物跡2棟、古墳時代中期の竪穴建物跡4棟、古代から中世の製鉄炉1基、道路遺構4基等を検出した。

**平成24年度** 平成24年度はB区及びG区の調査を実施した。まず、G区の調査から取り掛かり、4月9、10日に重機による表土剥ぎを行い、4月12日から発掘作業員の稼働を開始した。6月13日には



第2図 調査地位置図

業者委託による航空写真撮影を行い、G区の調査は終了した。その後、B区の調査は7月30日から8月1日かけて県道下市赤碕停車場線の道路下部分の表土剥ぎを行い開始した。遺構の調査がほぼ終了した10月24日には航空写真撮影、10月29日には調査後地形測量を業者委託により実施した。11月2日には記者公開、11月3日には現地説明会を開催し、県内外から63名の来場者を得た。

調査の結果、平成24年度は新たに縄文時代の落とし穴1基、弥生時代の竪穴建物跡2棟、古代末から中世の粘土採掘坑1基、炭焼窯1基、道路遺構2基を確認した。

よって、調査全体で縄文時代の集石土坑7基、落とし穴25基、掘立柱建物跡4棟、弥生時代後期の竪穴建物跡4棟、古墳時代中期の竪穴建物跡4棟、古代から中世の製鉄炉1基、粘土採掘坑1基、道路遺構7基、炭焼窯1基等を確認した。とりわけ、古代から中世では製鉄炉とともにその炉体に用いる粘土を採掘した粘土採掘坑や作業道とみられる道路遺構も併せて検出され、製鉄場全体の具体的な景観を復元するうえで重要な知見を得ることができた。

調査面積は、平成23年度が12,633㎡、平成24年度が2,000㎡で、計14,633㎡となる。

なお、製鉄炉の評価や製鉄関連遺物の分類整理について穴澤義功氏に、粘土採掘坑で採取された粘土や地質に関して赤木三郎氏に指導を仰ぎ、その指導内容を適宜取り入れながら調査を進めた。

**平成25年度** 平成25年度は遺物の整理作業を進め、報告書作成を行った。また、製鉄関連遺物の金属学的分析を実施し、11月には穴澤義功氏に分析結果を受けての製鉄関連遺構・遺物の最終的な評価に係る指導を仰いだ。

### 調査日誌抄

<b>平成23年度</b>	11月26日 現地説明会開催。52名参加。
4月1日 調査前地形測量開始。	12月14日 調査終了。
4月7日 調査前航空写真撮影。	<b>平成24年度</b>
4月18日 重機による表土剥ぎ開始(~26日)。	4月9日 G区重機による表土剥ぎ開始
4月27日 発掘作業員稼働開始。	4月12日 発掘作業員稼働開始
5月13日 B区人力による表土剥ぎ開始。	4月23日 道2の延長部分及び竪穴建物跡2棟を確認。
5月17日 A区遺構検出作業開始。	5月7日 道7の延長部分を確認。
5月24日 西区に着手。	5月21日 道2の底面で波板状凹凸面を検出。
5月25日 A区調査区完掘状況写真撮影。	6月12日 G区調査後地形測量終了。
5月26日 C区遺構検出作業開始。	6月13日 調査後航空写真撮影、G区調査終了。
6月10日 竪穴建物5検出状況写真撮影。	7月30日 B区県道下部分表土剥ぎ開始。
6月17日 C区集石土坑1検出、縄文土器出土。	8月8日 B区掘り下げ作業開始。
6月23日 B区サブトレンチで製鉄炉を確認。	8月21日 テラス1東半を確認。50cmメッシュを設定。
7月8日 C区調査区完掘状況写真撮影。	8月27日 粘土採掘坑1掘り下げ開始。
7月22日 テラス1に50cmメッシュを設定し、掘り下げ開始。	9月20日 道5を検出。
7月28日 D区竪穴建物1、2、7検出状況写真撮影。	9月21日 粘土採掘坑1が1号製鉄炉に付随する粘土採掘坑であることを初めて認識。
8月11日 竪穴建物1炭化材検出状況写真撮影。	9月26日 B区谷底の二次堆積層から有茎尖頭器出土。
8月24日 西区谷部V層掘り下げ開始。縄文土器、黒曜石製石器多量に出土。	10月4日 1号製鉄炉地下構造検出状況写真撮影。
9月12日 国土交通省、県文化財課とB区県道下の取り扱いについて協議。	10月5日 テラス1粘土面除去。
9月20日 穴澤義功氏現地指導(~21日)	10月24日 B区調査後航空写真撮影。
11月4日 F区遺構検出作業開始。	10月26日 赤木三郎氏現地指導。
11月9日 道7検出状況写真撮影。	10月29日 穴澤義功氏現地指導(~30日)。
11月22日 記者公開。3社来跡。	11月2日 記者公開。5社来跡。
11月25日 調査後航空写真撮影。	11月3日 現地説明会開催。62名参加。
	11月14日 B区調査終了。



## 第1章 調査の経緯

### 第3節 調査体制

鳥取県埋蔵文化財センター

#### 平成23年度

所長	久保 穰二郎
次長	中尾 淳一（兼総務係長）
総務係	
副主幹	白岩 準市
主事	楠原 真衣
事務職員	大丸 真紀、岡村 好美
発掘事業室	
室長	山栞 雅美（兼調整係長）
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	倉益 知子
調査担当（大山調査事務所）	
副主幹	牧本 哲雄（総括責任者兼調査担当責任者）
文化財主事	濱本 利幸（赤坂小丸山遺跡調査担当責任者）
	高橋 章司、北 浩明、坂本 嘉和、長尾 かおり
発掘調査員	荒川 和哉
事務職員	尾崎 勇真（4月～6月）、犬塚 義人（8月～平成24年3月）、 小塩 真生

#### 平成24年度

所長	久保 穰二郎
次長	中村 靖浩（兼総務係長）
総務係	
副主幹	白岩 準市
主事	水本 裕子
事務職員	大丸 真紀、岡村 好美
発掘事業室	
室長	山栞 雅美（兼調整係長）
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	池永 幸子
調査担当（大山調査事務所）	
副主幹	牧本 哲雄（総括責任者）
文化財主事	坂本 嘉和（赤坂小丸山遺跡調査担当）
発掘調査員	中井 勝治
事務職員	国谷 亮介、鳥橋 あゆみ

#### 平成25年度

所長	久保 穰二郎
次長	中村 靖浩（兼総務係長）
総務係	
係長	白岩 準市
主事	松浦 広美
事務職員	坂本 真奈美、山本 友以
発掘事業室	
室長	山栞 雅美（兼調整係長）
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	渡邊 ゆきえ
調査担当（大山調査事務所）	
係長	牧本 哲雄
文化財主事	高橋 章司、坂本 嘉和
事務職員	渡辺 晃